



Non-Profit Organization
Woods and Environment Network
Association

2018年度 総会資料
Annual Report 2017



2018年5月
特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会

2017年度の取り組みについて

■2017年度の活動

昨年の総会にて、役員・事務局体制が変わり、運営体制が大きく変わった年でもありました。より多くの方が参加しやすい場を創出し、新しいコミュニティづくりにつながるプラットフォームを目指して、会員・グリーンセイバーの皆さんとともにさまざまな活動を展開しました。

◇「目標指向型」から「共感支援型」へ

運営体制の変更を機に、活動のあり方を、事務局が中心となって進める「目標指向型」から、会員・グリーンセイバーの自主的な活動を事務局がサポートする「共感支援型」へ転換。里山林塾やグリーンセイバー新企画の実施、フィールドリーダーの交代など、現場からの意見や要望をスムーズに反映し、実現できるような体制を整えました。

◇安全対策の強化

「現場で生きる情報に！」をテーマに、これまで使用してきた安全手帳の見直しを実施。各フィールドやイベントなどで活用しています。

◇運営上の取り組み

運営体制が大きく変化したことをチャンスととらえ、事業の運営面での工夫、変更を行いました。

運営会議の実施・・・これまで事務局で行っていた運営に関する打合せを、理事を交えて実施することで運営面での強化を図りました。

フィールドミーティングの実施・・・現場からの意見や課題の共有をしやすくなるよう、フィールドミーティングを再開。今後年2回の実施を予定しています。

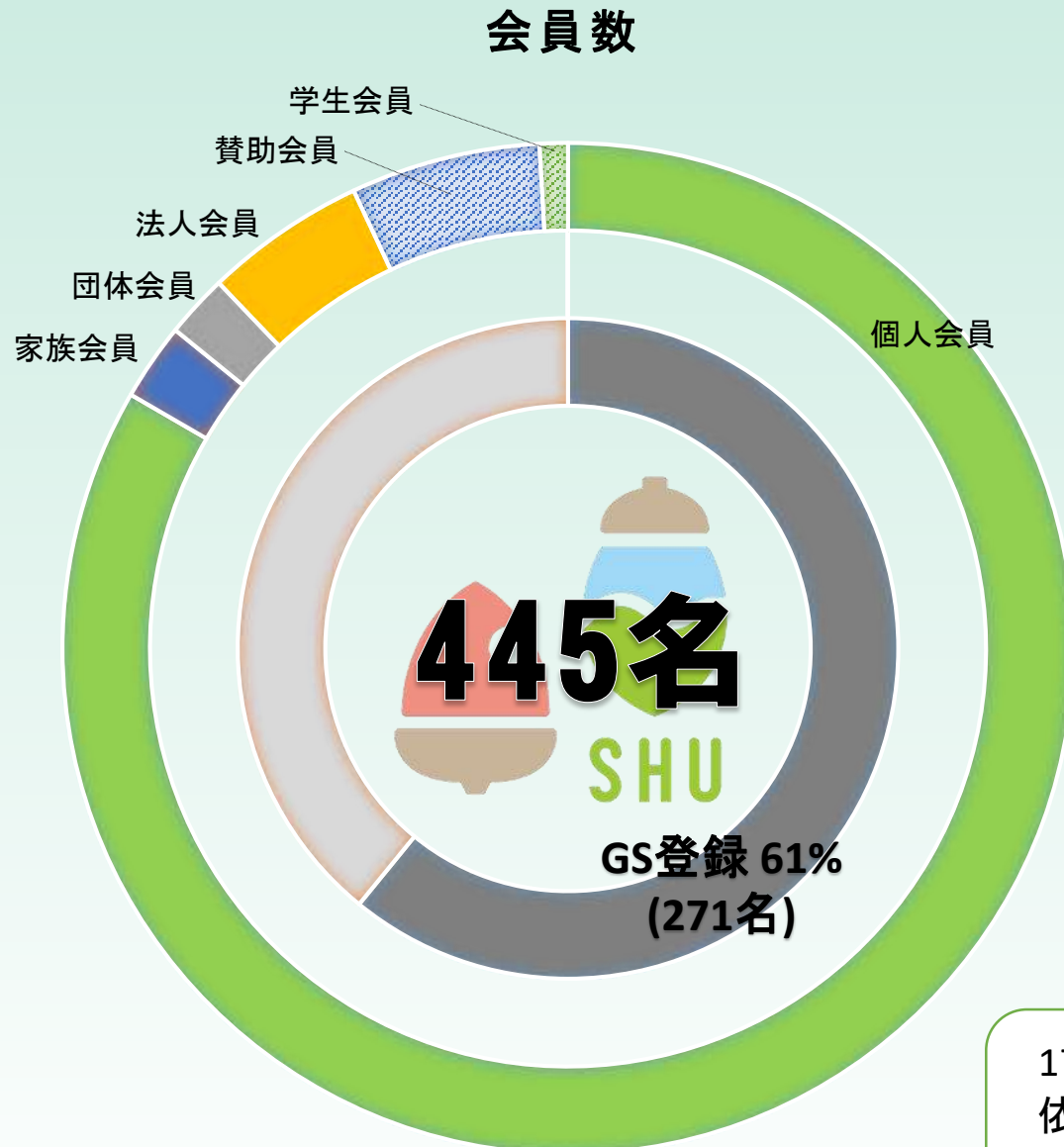
広報ツールのリニューアル・・・新しい聚をアピールし、メンバーシップを醸成するために、団体ロゴ、グリーンセイバーロゴを一新。それにともない、聚レター、封筒等のデザインを変更し、新たに会員証も制作しました。

会員管理の効率化・・・会員・GS登録制度を整理・改訂し、会員情報管理の効率化を推進中です。

会員

17年度会員(18年3月末時点)

合計445名



正会員 (計414名)

個人会員	371
家族会員	11
団体会員	9
法人会員	23

準会員 (計31名)

賛助会員	27
学生会員	4

17年度 退会者 108名(内 法人2)
入会者 21名(内 法人1)

17年度末での会員数は、入会者に比べ、退会者が多く、依然として会員数は減少傾向にあり、一層の会員獲得に向けた努力を必要としています。退会者の傾向としては、年会費未納が多く、今後の課題となりました。

グリーンセイバー事業

グリーンセイバーの活動の広がり

検定の受験者数は、伸び悩んでいます、一方、合格後の活動の場が広がり、活発に展開しています。

グリーンセイバーのみなさんが、合格者への説明会、自主企画(GS企画)、港区立エコプラザとの協働企画、環境コミュニケーション事業への参加など、各自の特色を生かした分野で活躍しています。



里山保全連続講座
…町田・三輪フィールドでの
里山林塾



他団体とのコラボレーション企画：日本シェアリングネイチャー協会による研修会



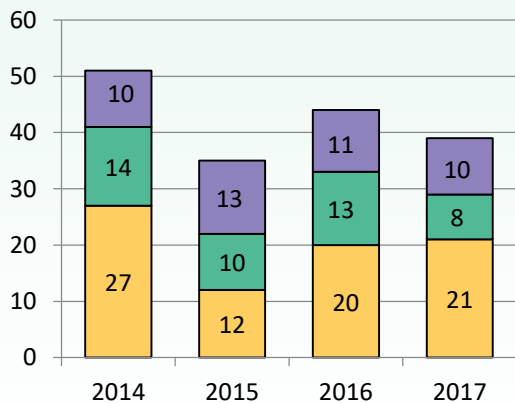
スタートアップ講座(町田・三輪)



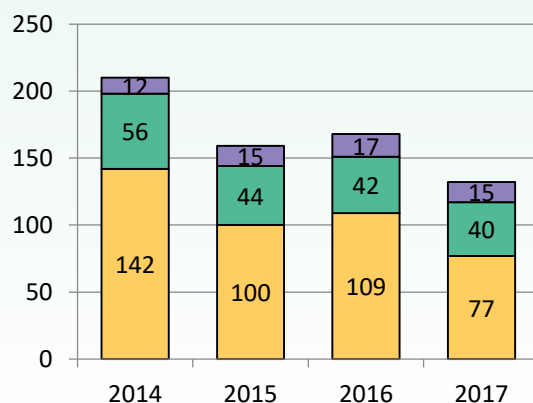
GS説明会(新宿中央公園)

■ ベイシック ■ アドバンス ■ マスター

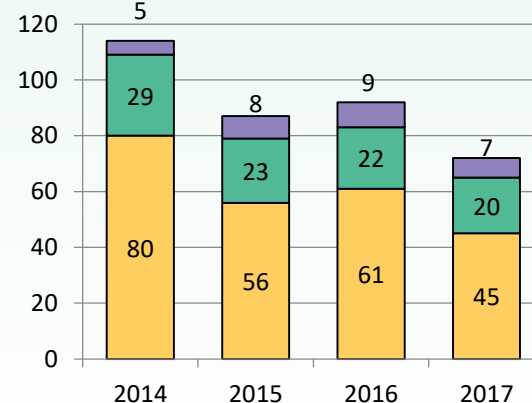
セミナー受講者



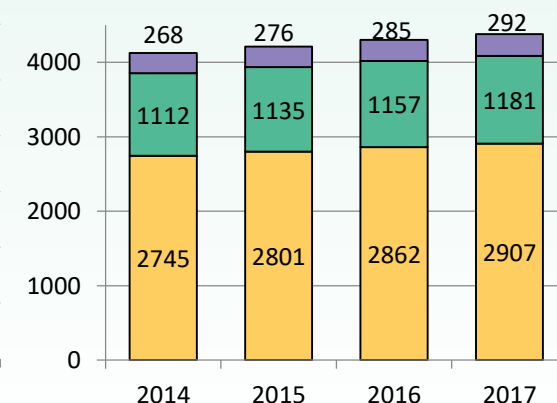
検定受験者



合格者



グリーンセイバー数(累計)

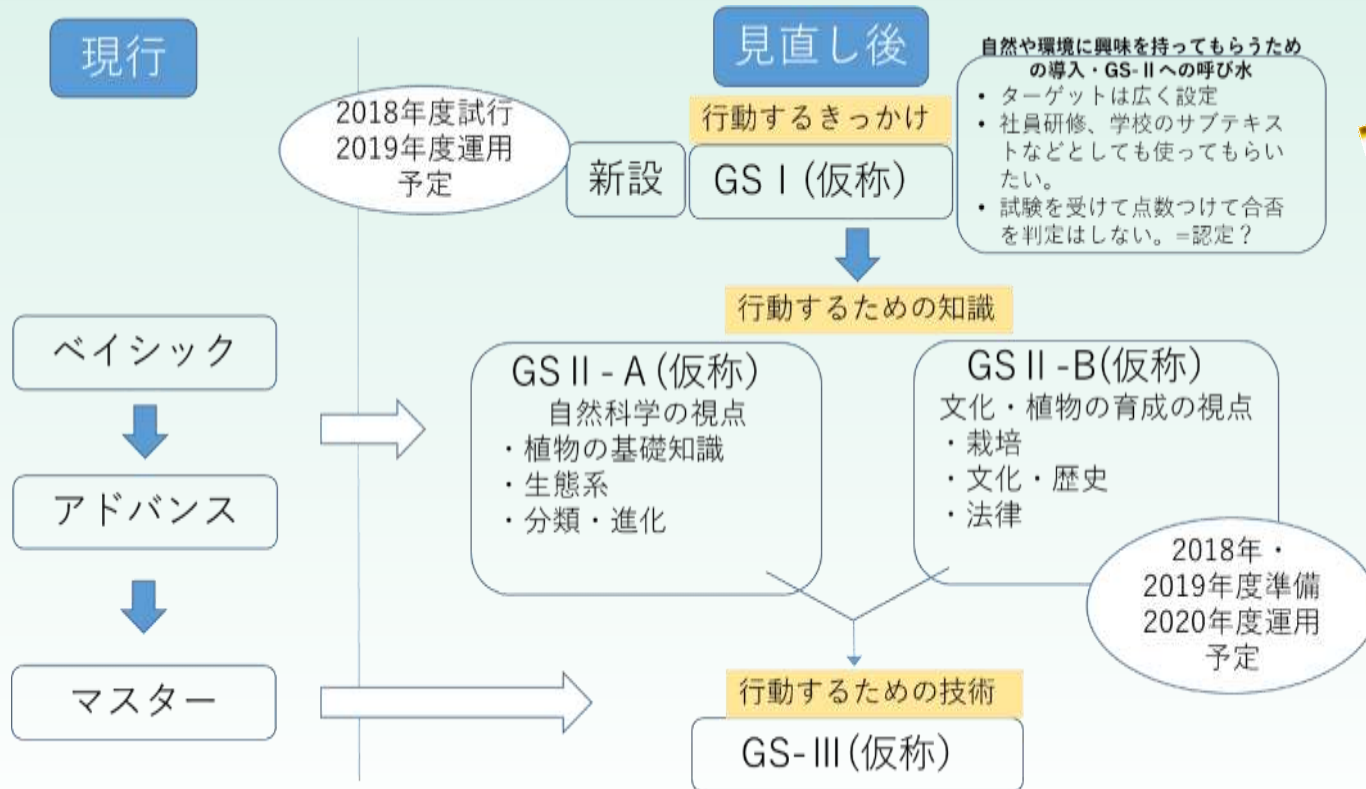


グリーンセイバー事業

★GS I (仮称)とは
 ・GS I のターゲットは一般の人々です。幅広い年齢層、さまざまな社会的立場にある人々を対象としています。
 ・GS I は入口に該当し、人と自然の関わりを知るため「気づき、発見」を大切にした課程です。

グリーンセイバー検定の見直し

- GS見直しWGを月1回実施し、新しいステップであるGS I (仮)のコンテンツの検討、運用方法の検討、テキスト(試行版)の作成を行いました。テキスト(試行版)は、東京ガス環境おうえん基金の支援を得て印刷しました。
- ベイシック・アドバンスの改訂版に相当するGS II (仮)の内容の検討を開始し、進めています。
- 新旧検定との関係・位置づけの整理を行いました。



グリーンセイバー事業

グリーンセイバーの主体的な活動(グリーンセイバー企画)

講座や観察会など、自然に親しみながら学びを深める3つのシリーズをグリーンセイバーが企画・運営してきました。

● これからはじめる自然観察

自然に興味はあって、もっと知るために一歩踏み出したいという方向けの気楽に参加できる観察会。

6/11 結構身近な森のめぐみ 他
計6回(内1回中止) 参加者71名 グリーンセイバー33名

● 自然と親しむ講座

自然に関する知識やノウハウをもう少し深く学びたい、ステップアップしたい方向けの講座的プログラム。

6/4 分かりやすい樹木同定講座 他
計4回(内1回中止) 参加者88名 グリーンセイバー8名

● 子どもワクワクプロジェクト

青少年を対象とした自然の不思議や魅力を五感で楽しむ自然体験プログラム。

4/30 花に隠された秘密 他
計6回 参加者121名 グリーンセイバー42名



グリーンセイバー事業

● これからはじめる自然観察

2018/3/4 実施
カメラで楽しむ公園散歩
@新宿御苑

一般の方を対象に、写真の撮り方から、公園・植物の楽しみ方のポイントを、体験的に学び楽しむ観察会を実施。自然観察のポイントを交えたことでこれまでにない撮り方を楽しんだ方もいました。



● 自然と親しむ講座

2017/7/29 実施
なぜ森の土は黒いのか
@武蔵野の森

土の実験や土壌生物の観察などから、森が生み出す土の重要な役割と生き物の繋がりを学ぶ講座。普段から植物や昆虫などを見ている人でも、土からのアプローチにより新しい発見のある講座となりました。



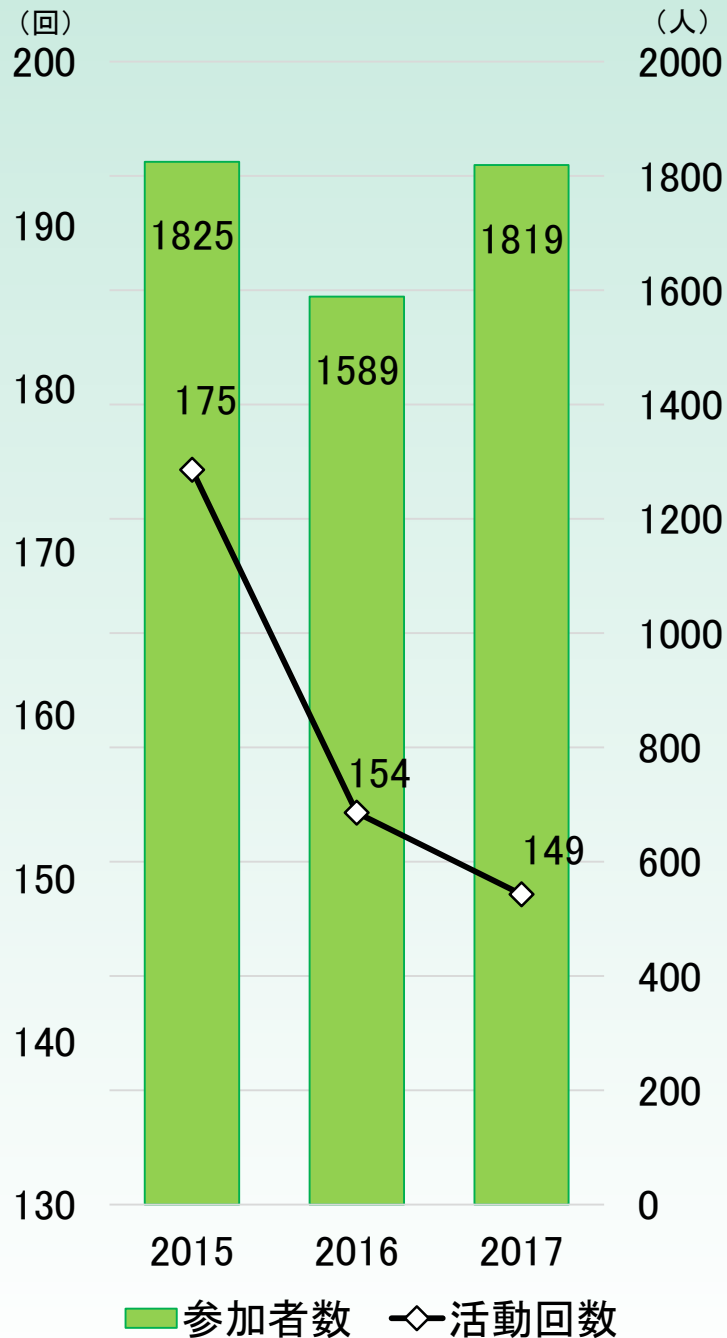
● 子どもワクワクプロジェクト

2017/8/19 実施
学ぼう！作ろう！
身近な里山こと始め
@港区立エコプラザ

都会の子どもたちに里山とはどういうところなのかを知ってもらうための講座とクラフトを通じたワークショップを実施。子どもたちも自分で作ったあそび道具で楽しんでいました。講師に三輪フィールドのメンバーに来ていただきました。



フィールド事業



13箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。
17年度活動の概要は以下の通りです。

【里山の再生・利用フィールド】

- 1 武蔵野の森から学ぼう 東京都武蔵村山市(東京都海道緑地保全地域 8.5ha)
- 2 町田・三輪里山 - 三輪里山クラブ 東京都町田市、約20.0 haのうち9.0ha実施中
- 3 TAMAZO 東京都日野市・多摩動物公園内雑木林(4か所) 約10.0ha
- 4 二宮フィールド - 二宮蜜柑倶楽部 神奈川県中郡の蜜柑畑
- 5 交野森 大阪府交野市、交野山森林公園他 51.5ha
- 6 御杖村 奈良県宇陀郡御杖村 29.8haの民有地
- 7 嵐山ふれあいの森 埼玉県比企郡嵐山町 8ha
- 8 千葉おぐらの森 千葉県千葉市 0.9ha
- 9 交野南星台 大阪府交野市南星台 0.7ha

【奥山の保全】

- 10 ハヶ岳ワーキング 長野県茅野市(北ハヶ岳麦草峠周辺～雨池)

【人工林の育成】

- 11 和歌山ワーキング 和歌山県紀伊田辺市 1.4haの人工林及び里山

【都市の中の緑を考える活動】

- 12 上野動物園緑化ボランティアクラブ 東京都台東区 上野動物園内
- 13 レッツ 久宝探検隊 大阪府八尾市、久宝寺緑地

フィールド事業

● 武蔵野の森から学ぼう ～海道緑地保全地域

コナラを主体とする雑木林の再生へ向けて間伐を実施しました。そのほか常緑低木等の藪刈りや枯損木の伐倒等により、林内・林床環境も変化し、多様化するようすが見られました。藪刈り後の林床にはシュンラン、キンランを確認しました。東京都環境公社の「里山へGO!」イベントを6月と2月に実施。各30名程が参加し、整備活動を行いました。



● 町田・三輪里山 ～三輪里山クラブ

東田谷戸～玉田谷戸の整備を行い、これにより約9haの林内整備を終えることができました。また運搬路確保のための整備も行いました。里山保全に必要な技術を身につけるための「里山林塾」を開講し、9名が受講しました。近隣の小学校で行う里山を活用した総合学習に当フィールドが使われ、フィールドメンバーが活動に協力しました。この活動が評価され、町田市教育委員会より「町田市学校支援ボランティア感謝状」をいただきました。



フィールド事業

上野動物園 緑化ボランティア

緑化壁の改修を一部実施。これまで植えては枯れてしまっていた植栽の回復が見られ、今後は継続的に緑化壁を維持できることが期待できるようになりました。近隣にお住まいの方や企業の方が多く参加し、賑わいを見せています。今後も残された緑化壁の改修を提案するとともに、継続して植栽整備を行っていきます。



レッツ久宝探検隊

春の野草や樹木などの観察会や体験会を定期的を実施。地域の店舗の方から理解を得て、スタッフとしてご参加いただいたり、店舗にチラシや工作物を置いてもらい、地域に広がった活動になりました。また、聚で取り組んでいる自然学習ゾーンの活動が評価され、大阪府より表彰状をいただきました。



フィールド定例活動に参加した企業・団体

エクスペディアホールディングス（町田・三輪）
 シナプティクス・ジャパン（TAMAZO）
 すぎなみ環境ネットワーク（TAMAZO）
 スターバックスコーヒージャパン（上野動物園）
 バイオロニックジャパン（TAMAZO、上野動物園）
 ブッキングドットコム（TAMAZO）

マルイグループ福祉会（町田・三輪、TAMAZO、武蔵野の森、上野動物園）
 マスワークス合同会社（上野動物園）
 レッド・プラネット・ジャパン（上野動物園）
 AGCコーテック（町田・三輪）
 CBRE日本（上野動物園）

環境コミュニケーション事業

2017年度も次のような多くの法人・団体と価値観を共有し、活動を行ってまいりました。

【フィールドでの受入れ】 10件（11回）

◇CSR活動等の社会貢献活動

TAMAZO

- ・ローソンみどりの募金
- ・エスアールジータカミヤ
- ・凸版印刷
- ・新生フィナンシャル
- ・東京セキスイハイム 2回
- ・MOTTAINAIキャンペーン
- ・バイオトロニックジャパン

交野南星台

- ・新生フィナンシャル

◇授業・研修等の実施

TAMAZO

- ・桜川中学校
- ・SMBC信託銀行

【環境イベントの協働実施等】 11件（29回）

- ・東京ガスコミュニケーションズ
わたしの森プロジェクト 3か所 6回
- ・ローソンみどりの募金
活樹祭（小菅村での親子森林教室）
- ・拓匠開発
野田みずきビオトープ管理 5回
- ・西町インターナショナルスクール
校内の植栽の提案と管理
- ・港区立エコプラザ
環境イベントの企画運営 4回
街歩き冊子監修
環境教育の市民講座の開催
ビオトープを通じた環境学習の実施（年4回）
- ・国際森林デーの実施
（実行委員会として参加）
- ・環境教育関東ミーティングの実施
（実行委員会として参加）
- ・学びのフェス、企画実施・指導（KDDI） 2回

【森づくり関連】 4件（4回、および通年）

- ・海の森公園ボランティア 指導育成（月2回+α）
- ・グリー 海の森での育樹活動
- ・すぎなみ環境ネットワーク 海の森での育樹活動
- ・三菱電機 海の森での育樹活動 2回

【研修や授業の実施】 3件（9回、および3名）

- ・損保ジャパン日本興亜 CSOラーニング制度 3名
- ・日水コン 住民協働モニタリング支援 8回
- ・国土緑化推進機構 秋合宿コーディネーター

【所有緑地の管理・活用】 2件（8回）

- ・東京ガス 3工場での環境調査 年2回
- ・凸版印刷 2回

【環境ツールの制作、企画展示】 2件

- ・越谷市 環境学習ツールの開発
- ・中央区環境情報センターでの企画展示

参加者： 約1750名（累計・不特定多数を含む）

実施にあたり関わった指導者（累計）： グリーンセイバー122名 / 会員1名 / 一般・外部講師42名



環境コミュニケーション事業

SMBC信託銀行

新入社員を対象とした研修の一環で、屋外研修のコーディネートを行いました。ワークショップと林内での整備作業を通じて、森づくり、里山保全等の社会貢献の意義とグループ活動の醸成を目的に実施しました。



拓匠開発

千葉県で宅地開発が行われる地域でのビオトープを主とした環境づくりのコーディネートを行いました。開発エリアからの貴重種の保全だけでなく、地域の生物が生息するビオトープとして管理を続けています。



埼玉県東南部都市連絡調整会議 (越谷市環境政策課)

越谷市より委託を受け、都市と農地を結ぶ環境学習ツールを開発しました。開発の元となったのは、5年前に開発した「ぼくらの里山ゲーム」です。



いきもの
んまる
ろ
カードゲーム

環境コミュニケーション事業

● 海の森事業(東京都港湾局)

東京都から委託を受け、海の森公園ボランティアの指導を実施しました。また、海の森倶楽部会員事業の実施に当たり、関係団体と協議、調整等を行い、育樹イベントを行いました。



● わたしの森 (東京ガスコミュニケーションズ)

マンションの住民のコミュニティ形成や自然への興味の促進を目指し「わたしの森」プロジェクトを実施しました。元住吉やひばりが丘では、花壇づくりやクラフト作成を通して住民同士の交流が見られました。



● 活樹祭～親子森林教室 (ローソン)

母子家庭を対象に、山梨県小菅村にて親子森林教室を行いました。一泊二日で森林整備や源流体験を行い、森の大切さを学ぶことができました。また母子家庭同士の交流の場にもなりました。活動には現地のNPOと協働して実施しました。



情報発信と共有(広報) 1

コーポレートデザインのリニューアル

● 団体ロゴ



● グリーンセイバーロゴ



● 会員証・GS登録証の発行



GS登録シール

● 封筒デザイン



運営体制と活動方針の刷新を視覚的にも印象付け、会員の皆さんの帰属意識を高めるために、ロゴをはじめとするコーポレートデザインをリニューアルしました。

どんぐりには雑木林、拾う、集める、手、実生、芽生え、成長、次世代など、虫食いの穴には、生きもの、生物多様性、生態系など、ラインには水路、循環、里山の風景などの意味を託しました。グリーンセイバーのロゴには「人と自然をつなぐ」という意味の「+」をデザインに入れています。

情報発信と共有(広報)2

多角的な情報発信ツールの活用

● 聚レター



142号での新体制報告に続き、144号で左開きへの変更を含むデザインリニューアルを実施。顔の見える活動報告兼会員獲得ツールとして各種環境施設でも配布をお願いしています。

● 外部広報媒体など

新聞やコミュニティペーパー、告知サイトなど、GS企画の参加募集を中心に、会員以外の方へも発信する機会を重視しています。

● ホームページの全面リニューアル

最新情報と詳細な情報へのアクセスしやすさを目的に、必要に応じてマイナーチェンジを実施してきましたが、新ロゴとイメージを統一した大幅なリニューアル作業を進行中です。

● SNS

フェイスブック、ツイッター、ブログ、メルマガを活用。会員やグリーンセイバーの皆さんにも情報発信、拡散の協力をお願いしています。特に会員さんの運営しているブログなどでの反響が大きく、今後も協力いただければ幸いです。

● Google for Nonprofitsの活用

非営利団体を対象としたグーグルの無料サービスに登録。検索ワードに応じて、広告が表示される「アドワーズ」の使用をスタートしました。

2017年度 財務報告

収支・成果報告

成果内容については、1～14ページをご覧ください。

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

※収益事業は省略しています。

発生費用の部:活動のためにかかった費用		非営利活動		2017年度合計
		2016年度	2017年度	
事業費	総務・管理	¥2,341,235	¥3,049,118	
	広報	¥2,412,139	¥2,639,981	
	グリーンセイバー事業	¥3,311,943	¥3,818,679	
	フィールド活動事業	¥6,950,762	¥6,538,000	
	環境コミュニケーション事業	¥11,995,043	¥11,203,820	
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	
棚卸高	期首商品棚卸高			
	期末商品棚卸高			
発生費用合計		¥27,161,122	¥27,399,597	¥27,399,597

費用負担の部:その費用は以下のように負担しました。		非営利活動		2017年度合計
		2016年度	2017年度	
受取会費	会費負担分	¥3,948,000	¥4,680,000	
受取寄付金		¥2,293,169	¥1,262,421	
事業費	グリーンセイバー事業	¥3,073,388	¥2,043,528	
	フィールド活動事業	¥6,550,305	¥6,668,924	
	環境コミュニケーション事業	¥13,851,957	¥12,786,114	
事業外収入	受取利息・雑収入	¥58,154	¥24,036	
費用負担額合計		¥29,774,973	¥27,465,023	¥27,465,023
当期正味財産増減額		¥2,613,851	¥65,426	¥65,426

1) 助成金取得実績: 国土緑化推進機構(2,035,842)、東京ガス環境おうえん基金(700,000)、関東・水と緑のネットワーク(120,686)

2) 寄付金内訳: 朝日ライフアセットマネジメント(730,000)、KDDIキボウノカケハシ(140,400) 他

2017年度 財務報告

貸借対照表

(単位 :円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	141,359	未払金	1,212,749
普通預金	3,009,402	前受金	1,931,000
郵便振替口座	897,178	預り金	174,807
未収金	5,575,436	流動負債合計	3,318,556
前払金	14,080		
前払費用	127,872	2 固定負債	0
流動資産合計	9,765,327		
		負債合計	3,318,556
2 固定資産			
有形固定資産		III 正味財産の部	
車両・運搬具	453,600	前期繰越正味財産	6,871,970
減価償却累計額	△392,175	当期正味財産増減額	65,426
有形固定資産合計	61,425	正味財産合計	6,937,396
無形固定資産			
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,200		
固定資産計	490,625		
資産の部合計	10,255,952	負債・正味財産の部合計	10,255,952

2017年度 財務報告

監査報告書

監 査 報 告 書


特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2017年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内
容を適切に反映していると認めます。

2018年 5月14日

特定非営利活動法人
樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志 

三尾 隆志

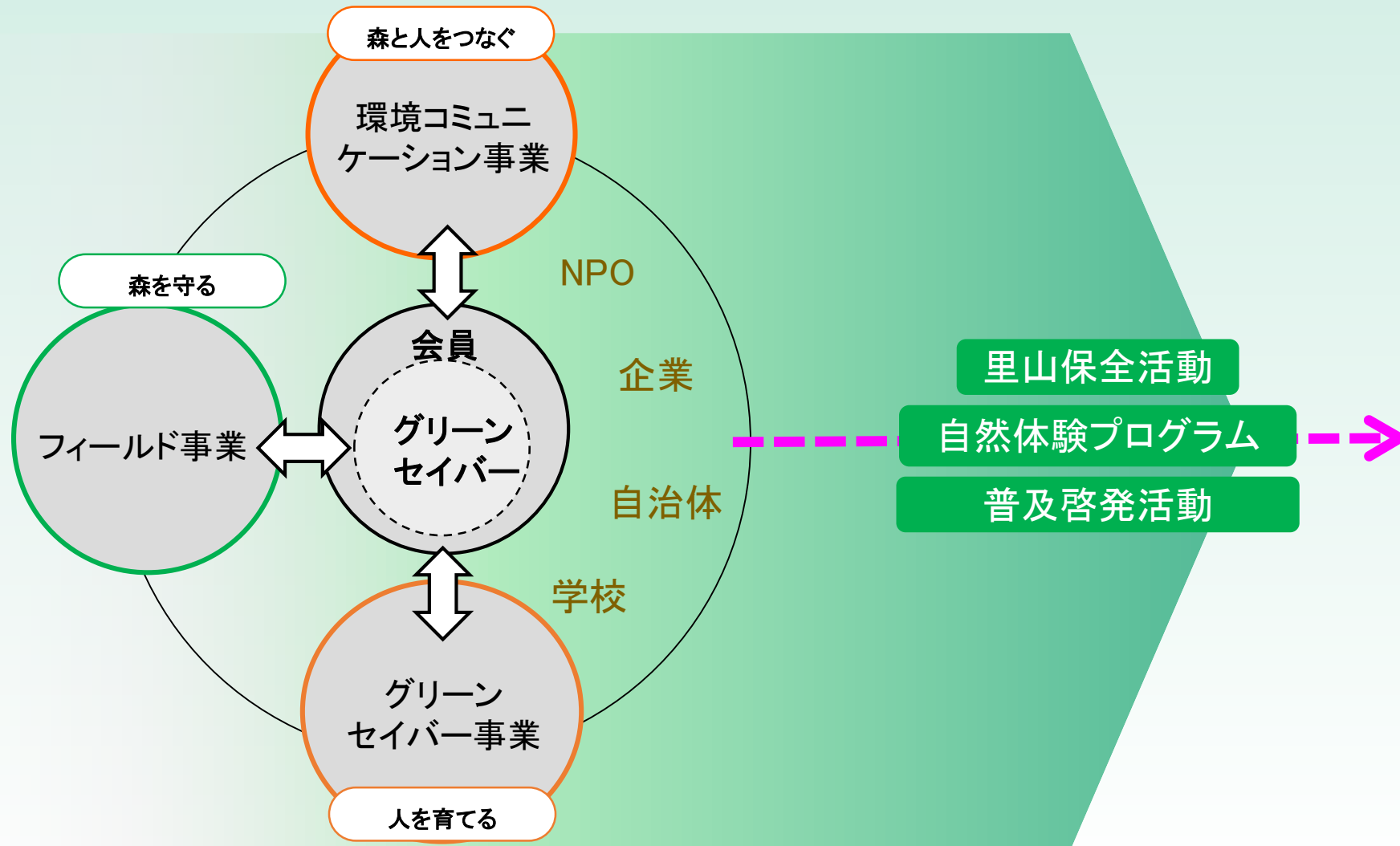
監事 吉田寛 

吉田 寛

2018年度 活動計画 基本方針

会員・グリーンセイバーが自ら主体となる活動へ

会員・グリーンセイバー・関係団体が、協会の活動を「人と自然が調和する持続可能な社会」へ向かう活動として理解し、それにむけて里山保全活動や自然体験普及活動が社会の中でどのような意義をもつかを自ら考えながら、各事業を進めていくあり方を目指します。



『人と自然が調和する
持続可能な社会』

2018年度 活動計画

グリーンセイバー事業



①グリーンセイバー検定事業

グリーンセイバー検定の広報活動をさらに強化するとともに、セミナーの開催、検定試験を継続します。また、合格後の説明会、スタートアップ講座等により、各種の活動への参加を促します。

②グリーンセイバー・リード・プログラムの展開

フィールドその他において行われる事業で、企画から準備・実施全体をグリーンセイバーがプログラムをリードする機会を増やしてゆきます。積極的な参画をお願いします。

③GS企画イベントの展開継続

2012年から始まったグリーンセイバーによるGS企画は2018年度も16企画を展開予定です。新グリーンセイバーも引きこみながら、引き続き、より楽しく、充実した企画に進化させていきます。

④グリーンセイバー内部勉強会・研究会の実施

グリーンセイバーのスキルアップを図る自主的な勉強の場が動き出しています。山登り講座、嵐山の植物調査、フェノロジー勉強会、一人一木研修などなど。学んだことの実践の場、グリーンセイバーの交流の場にもなることが期待できます。

⑤グリーンセイバー資格検定の見直し

検討ワーキンググループにおいて引き続き進めます

- ・GS I (仮)の試行 ⇒ フィードバック ⇒ 2019年度実施への準備
- ・GS II (仮)の作りこみ ⇒ 広報活動開始 ⇒ 2020年度開始に向けて準備
- ・GS企画、里山林塾、フィールド活動との連携

2018年度 活動計画

フィールド事業

①地域連携の強化

- ・「里山へGO！」など、管理者との連携、協働したプログラムの実施します。
- ・地域の施設の有効利用や近隣住民との関係を深めます。

②グリーンセイバー資格検定との連携

- ・里山林塾をはじめとする資格検定合格者のスキルアップやフィールド活動への積極参加の促します。

③フィールドリーダーとの情報共有

- ・リーダーからのご意見や要望に対し、柔軟に対応できるよう、連絡体制を強化します。
- ・フィールドミーティングを行うことにより情報を共有しやすい体制をつくります。
- ・安全面の情報共有と意識向上を図ります。

④企業・団体のボランティア参加

- ・CSRや研修、レクリエーションなど、フィールドでの団体活動の受け入れを積極的に行います。
- ・定例活動への参加を促します。

2018年度 活動計画

環境コミュニケーション事業

NPOの使命は、社会を変えていくことです。社会を動かしているさまざまな企業・団体と協働、協力した活動を行うことは、社会的課題に対しての強力な一歩となります。特にSDGsに代表されるように、社会的な課題に向けて、個々の団体で進めていくのではなく、企業、行政、NPOなどが、価値観を共有して課題に取り組むことが、ますます重要になってきています。

①他団体との連携

他団体の得意部分やノウハウ、場所など、当協会では対応できない面において、他団体と連携し、補い合うことでプログラムの多様化、社会的意義の向上を目指します。

・活樹祭の実施

ローソン、国土緑化推進機構との協働事業。

石垣島、小菅村、仙台の現地の団体とプロジェクトの企画・運営を行う。

・野田みずきビオトープ

千葉県野田市のビオトープの管理において、現地の自然保護を行っている団体と連携し、地域の生態系保全を推進。

②森林環境税の有効活用

森林環境税を使った教育分野(学校等)への展開の可能性を検討します。



2018年度 活動計画

会員獲得、制度の改定、広報 等

● 入会費無料キャンペーン

NPOとして会員を増やしていくことは、社会からの認知度、活動の促進という側面からも重要なファクターとなります。

今年度、一般の入会を促すため、入会費無料キャンペーンを行っています。

フィールド活動への一般参加者や観察会やイベントにおいて、会員・グリーンセイバーの皆さんが誘いやすくなっていますので、ぜひご協力のほどよろしくお願ひします。

● 自動引落手数料の無料化

これまで会費の自動引落の際、手数料をいただいていたが、手数料を無料化することで自動引落の件数を推進し、会費の振込処理の省略化を図ります。

手数料が協会の負担となりますが、会費引落の連絡を電子メール等で行うことで郵送費のコストダウンを図ります。

● 学生会員の廃止とユース会員の新設

学生会員を設置していましたが、卒業の確認などができず管理が行き届かないため、学生会員の廃止し、ユース会員を新設します。

ユース会員の新設により、若い方の入会と活動への参加を促進します。

旧 学生会員 → 廃止

新 ユース会員 → 年2000円 15～25歳までの会員

● ホームページの全面リニューアル

新ロゴの誕生に伴い、ホームページの全面リニューアルを行います。

新ホームページでは、スマートフォンでも見やすいレスポンシブルデザインを採用し、欲しい情報へ早くアクセスできるようにページ数の整理削減を行います。（秋ごろ公開予定）

● その他

会員が利用しやすい事務局の環境づくりを行います。気楽に立ち寄りください。



2018年度 予算計画

◆収入の部

項目	2017年度実績	2018年度予算	主な活動
会費	¥4,680,000	¥4,214,000	
正会員	4,607,000	4,141,000	個人、家族、法人、団体
準会員	73,000	73,000	賛助、学生
寄付	1,262,421	1,300,000	個人、キボウノカケハシ、朝日ライフアセットマネジメント 等
事業	¥21,498,566	¥23,671,000	
内訳)グリーンセイバー事業	2,043,528	1,762,000	検定、セミナー、過去問・テキスト販売、GS企画
内訳)フィールド事業	6,668,924	5,200,000	フィールド活動委託、法人・団体等の活動受け入れ
内訳)環境コミュニケーション事業	12,786,114	16,709,000	海の森、活樹祭、他団体との協働活動やコーディネート
その他収益	24,036	25,000	
A) 収入の部 合計	¥27,465,023	¥29,210,000	

◆支出の部

項目	2017年度実績	2018年度予算	主な活動
総務・管理	3,049,118	3,050,000	会員管理、日常業務 等
事業支出	¥21,560,498	¥22,848,000	※以下3事業の合計
内訳)グリーンセイバー事業	3,818,679	3,818,000	検定、セミナー、見直し検討 等
内訳)フィールド事業	6,538,000	6,806,000	フィールド活動推進、法人・団体との活動経費
内訳)環境コミュニケーション事業	11,203,820	12,224,000	海の森委託、活樹祭の運営費、その他法人・団体との活動経費
広報	2,639,981	3,048,000	会報誌・ホームページの作成と運営
法人税・住民税・事業税	150,000	150,000	法人税、住民税、事業税
B) 支出の部 合計	¥27,399,597	¥29,096,000	

上記に含まれる固定費の内訳	¥18,364,659	¥18,170,000	
人件費・通勤費・福利	12,298,834	12,120,000	事務局、アルバイト人件費、および通勤費、福利費
地代家賃	1,918,080	1,920,000	東京事務局、大阪事務局
光熱費・リース代 他	3,216,840	3,200,000	通信運搬、水道光熱費、リース代、保険代 他
租税公課	930,905	930,000	消費税納付 等

前期正味財産	¥6,871,970	¥6,937,396	
当期正味財産増減額 (A-B)	¥65,426	¥114,000	
正味財産合計	¥6,937,396	¥7,051,396	

団体概要

【組織】※2018年3月現在

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会

設立 1995年9月19日

ホームページ <http://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南

[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448

[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号

[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247

[Mail] kansai.syu1@nifty.com

[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>

【活動内容】

- ①自然生態系との共生に関する環境づくり及び調査研究
- ②自然生態系との共生に関する人材の育成及び国内外のネットワーク構築
- ③その他目的を達成するために必要な事業

【事務局スタッフ】

理事長 清水 善和

副理事長 川端 白人

専務理事 中西 由美子

理事・事務局長 後藤 洋一

スタッフ(東京) 種池 真依子

スタッフ(東京) 石崎 庸子

スタッフ(東京) 加藤 武

スタッフ(東京) 高橋 貴子

スタッフ(大阪) 山本 睦子



役員・理事

【役員最高顧問】	池田 武邦	
【理事/最高顧問】	山本 光二	樹医
【理事長】	清水 善和	駒澤大学総合教育研究部教授
【副理事長】	川端 自人	グリーンセイバー・マスター
【専務理事】	佐藤(中西) 由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】	飯塚 勇	株式会社丸原ホールディングス代表取締役
【理事】	石田 栄治	トヨタ自動車株式会社 環境部 コミュニケーション部長
【理事】	伊藤 晴康	有限会社ゼフィルス 代表取締役
【理事】	大垣 文義	グリーンセイバー・マスター 前専務理事
【理事】	大川 英登	御杖村フィールドリーダー
【理事】	岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】	片山 雅男	夙川学院短期大学児童教育学科教授
【理事】	久保 重明	三輪里山フィールドリーダー
【理事】	小林 勝彦	東京ガス株式会社 環境部長
【理事】	後藤 洋一	事務局長
【理事】	C.W.ニコル	C.W.ニコル・アフアの森財団 理事長
【理事】	澁澤 寿一	前理事長
【理事】	塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】	渡辺 順彦	株式会社アテナ 取締役会長
【監査】	三尾 隆志	公認会計士
【監査】	吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

※2017年10月22日 川村耕太郎氏が理事を退任いたしました。

法人会員

- 1 株式会社アテナ
- 2 株式会社エスパシオ
- 3 ENEOSグローブ株式会社
- 4 NECネットエスアイ株式会社
- 5 株式会社新生銀行
- 6 株式会社昭栄
- 7 損保ジャパン日本興亜株式会社
- 8 株式会社高橋総本店
- 9 東京ガス株式会社
- 10 東京ガス都市開発株式会社
- 11 株式会社東京吉兆
- 12 凸版印刷株式会社
- 13 トヨタ自動車株式会社
- 14 株式会社日本設計
- 15 株式会社パラッツォ東京プラザ
- 16 株式会社美交工業
- 17 株式会社ひむか造園土木
- 18 三井住友海上火災保険株式会社
- 19 株式会社ユーエム工業
- 20 株式会社ローソン

※2018年4月時点